

大学コンソーシアム京都インターンシップ・プログラム

長期プロジェクトコース プロジェクト報告書

株式会社ユニオン・エー

～おっちゃんとおばちゃん認知向上プロジェクト～

谷口青空・中津彩香・山内歩果・若月祐香

2022年11月9日

1. はじめに

人生において働く時間は膨大だ。そんな膨大な時間を自分のやりたいことで過ごせたらどんなに幸せだろう。やりたいことが見つからない・どうしても現実的に考えてしまうーそんな悩みを抱えた大学生4人が、株式会社ユニオン・エーのインターンシップにて「働く」ことについてとことん考えた。今回のインターンシップは、株式会社ユニオン・エーが出版している就活情報誌『おっちゃんとおばちゃん』の認知向上を目標として行った。就活情報誌『おっちゃんとおばちゃん』とは、働くことの多様性・多様な価値観を知ってほしい！という編集部の熱い思いの下、仕事の楽しさ・トキメキを多角的に追及している稀有な雑誌である。以下、プロジェクトの具体的な取り組み内容を2章で述べた後、3章にてインターンシップを経て感じた心境の変化を述べてまとめとさせて頂く。

2. 主な活動内容

1. 事前訪問以前

プロジェクトの目標『「おっちゃんとおばちゃん」の周知拡大』を目指して、それぞれが意見を出し合った。SNS(主にインスタグラム)による活動の報告、「おっちゃんとおばちゃん」がおいてある設置場所の再検討、また、おっちゃんとおばちゃんを使った展示会、高校生や大学生への就活ワークショップを行うなどの意見が出た。設置場所の変更については、それぞれが大学のキャリアセンターに問い合わせたり、学食においてもらえないかなど交渉を行ったりした。

2. 事前訪問

ユニオン・エーに事前訪問した。会社の雰囲気少しわかったり、働いている社員さんと話す機会があったりした。これまで私たちが出したアイデアについてアドバイスをいただいたり、修正やさらなる検討をするようにとの指示をいただいたりした。私たち学生だけでは考えの及ばなかったことについて指摘していただき、とても勉強になった。次回までに具体的な物を制作しておくようにとの指示を受けた。

3. 副編集長・社員とのミーティング

初めて副編集長や社員の方と対面でお話をした。また、ほかのインターンシップとしてユニオン・エーにお世話になっているという学生の方にもお会いし、お話をした。それぞれ自己紹介をしたり、これまで私たちが考えてきたアイデアを伝えたりした。それが「本当にやりたいこと」なのかとのお言葉をいただいた。確かに私たちは課題解決のためにとにかく何かやらないと、とあせってしまっていて、考えていたアイデアが本当にやりたいことなのかについては深く考えられていなかったように思う。同時にやりたいことをやってもいいという環境であることにも驚いた。

また、ご指摘いただいたように、ユニオン・エーや「おっちゃんとおばちゃん」の本質や伝えたいことを深く理解できていなかったように思う。

4. 株式会社ユアビリティ・デベロッパーズ 代表取締役 石井さんへの取材

ユニオン・エーは面白い人生を歩む人として、石井さんへの取材に私たちも参加するよう勧めてくださった。「おっちゃんとおばちゃん」の理解にもつながるだろうとのことであった。

石井さんは、ご自身の人生を私たちの他数名の学生を含めたインターン生に向かって話してくださいました。とても興味深く、終始おっしゃっていた「自分らしく、ありのままに生きる」ことについてのお話は、私たちにとっても当事者として受け止められる身近なもので、尊くもあり、それでいてその困難さが深く心に響いた。これから、社会人になるという人生の次のステージに進む私たちにとって、とても心に刺さるお話であった。各々の質問についても真摯に答えてくださり、その回答は将来に役立つだろうものばかりであった。

○この取材の様子は「おっちゃんとおばちゃん」vol.30 p.24・25 に収録されている。私たちインターンシップ生と、大学生を含む就職を考えている人々、という「おっちゃんとおばちゃん」のターゲット層は被っているので、より興味が惹かれる内容になっていることが考えられる。質問も生身の私たちから出たもので、同じような価値観、考え方を持つターゲット層の方達の共感を得られるだろう。

5. 編集長のお話

編集長のお話を聞く機会を設けていただいた。編集長の経歴から人生まで幅広くお話を伺った。また、ユニオン・エーという会社について、「おっちゃんとおばちゃん」というフリーペーパーについて、さらには出版という仕事についてもお話ししてくださった。

私たちインターンシップ生の中には出版関係の仕事に興味があったために、ユニオン・エーをインターンシップ希望先に選んだ者も多く、実際に働かれている、そしてその長でもある編集長の出版の仕事についてのお話を聞けたことはとても大きな財産となった。編集長の出版物にかける想いや信念のようなものも未熟ながら少し感じ取ることができたように思う。

また、就職に迷いを感じている私たちに具体的な体験を交えながら、就職には失敗はなく、何を選んでもいいと説いてくださり、世界が広がったような気がした。働き方についても提示してくださった。

ユニオン・エー設立の起源や、「おっちゃんとおばちゃん」の刊行意図も同時に教えていただいたことで、企業理念の理解につながり、プロジェクト目標の理由もより明確に鮮明に感じられるようになった。

○普段聞くことのできない生の出版業界のお話、身近な大人以外の働いている方のお話を聞くことができた。企業の長としての心構えのようなものも少しわかった気がする。何よりプロジェクト目標、ひいては目的の理解につながる機会であった。

6. サンシード株式会社 桃井社長とのワークショップ

ユニオン・エーが普段から実施しているワークショップに参加させていただいた。企業様に素朴な疑問をぶつけられるという会である。

まず、ワークショップ開催日までにそれぞれ企業様に聞いてみたい質問を考えた。質問については、社員の方々に聞いてもらい、アドバイスをいただきながら、何度もブラッシュアップを重ね、

自分がもらいたい回答をもらえるように精査していった。

企業様は私たちが準備した質問に対して、的確に回答してくださった。主に経営者目線でのお話を聞けて、経営者が求める人材像が明らかになったり、サンシード株式会社ならではの特徴も紹介してくださったりして、大変勉強になった。

〇ワークショップでは、何より質問をすることの難しさを学んだ。質問とは、単に思っていることを口に出せば良いというものではない。相手にしてもらいたい回答を引き出せる質問を作るには語彙力や思考力などが必要となるし、自分の言いたいことを伝えるのは思っていた以上に難しいと感じた。逆に、これまで私たちは伝えたかったことをほとんど、正確には伝えられていなかったということを感じた。そして、相手の話を引き出す質問力、自分の内面にある本当に言いたいことを明確に伝える能力というものは社会人としては必須の力であると感じた。

7. 株式会社アドナース 取締役 廣瀬さんへの取材

京都市右京区桂駅付近に事務所を構える、株式会社アドナースの廣瀬さんへ取材に伺った。訪問介護や看護を専門に事業を展開する企業である。

〇介護に携わる廣瀬さんは患者さんと接することが多いため、相手の本音を聞き出すために質問力を高めることが大事であるとおっしゃっていた。また、「自分の価値観を押し付けない」という言葉を教わった。これは、たとえ自分が常識だと思っていることであっても、相手の個性やこだわりを受け入れて彼らの価値観を認めるという意味である。私たちもこれから沢山のひとと接することになると思うが、廣瀬さんのように相手の価値観を尊重できる人間になりたい、そのためにも質問力を磨いていきたいと感じた。また今回の取材はユニオン・エーのフリーマガジン「おっちゃんとおばちゃん」に掲載される予定だ。

8. 株式会社カトーテック 執行役員 河内さんへの取材

株式会社カトーテックの河内さんへ取材に伺った。株式会社カトーテックは最先端テクノロジーである「風合い試験機」のフロンティア企業だ。人が感じる風合いを数値化し、心地よい商品づくりの裏方として活躍している。そんな株式会社カトーテックの河内さんにお話を伺った。

〇河内さんはカトーテックに転職される前も自分らしさを持った面白い人生を歩まれている方だった。河内さんへ質問した中で一番印象に残ったのは、仕事に対する熱意のイメージだ。仕事に対する自分の熱意を「めっちゃくちゃ熱い鉄球」と表現しており、芯まで熱く、触れると熱さが伝わる鉄球の様子が、一緒に仕事をする他者にも熱意を伝播させたいという自分の思いと重なるとおっしゃっていた。また企業を選ぶ際には数年後に自分がその企業で成長できているのかをイメージすることが大事だと学んだ。今回、私たちが学んだことや取材をした際の感想は、ユニオン・エーの公式Instagramアカウントに掲載された。

9. トヨタカローラ京都株式会社 浪江さんとのワークショップ

トヨタカローラ京都株式会社の浪江さんからワークショップにてお話を伺った。浪江さんは営業職としてトヨタ車の購入を提案し、販売するお仕事はもちろん、子供たちに車の知識や魅力を伝え

る活動など、お客様との信頼関係を結ぶことにつながる取り組み全般に携わっておられる方だ。

○浪江さんは非常に気さくで、人とのつながりに仕事のやりがいを見出していることが話している時に伝わってきた。そんな浪江さんのお話で 1 番印象に残ったのは、「最初は緊張するかもしれないけど、自分が 1 番に手を挙げる意識をもつこと」という言葉だ。浪江さんも、かつては緊張して積極的になれない時もあったというが、このように自分に言い聞かせ、ある意味自分を追い込むことで、緊張せず自分に自信をもてるように変化していったらしい。また仕事に対する熱意を「焚火」のようだと表現していた。これは焚火が周りにも温かさを伝えることを笑顔が伝染していく様子に譬え、火を加えるとさらに燃える焚火の様子を、チームの雰囲気相乗効果で良くなっていくことと重ねているとのことだった。自分たちインターンシップ生 4 人は現実的に物事を捉えすぎるあまり、一歩遠慮してしまうという共通点があるが、浪江さんのように自身の課題と向き合い、言い訳しないように自分を追い込むことで、一回り成長した自分になれるのではないかと思った。

3. まとめ ～心境の変化～

今回のインターンシップ全体の活動を終えて、学んだことはたくさんある。その中でもグループ全員が感じていることは、働くことや人生に関しての考え方や価値観が変化したということだ。具体的には、これから就職活動をしていく上で、待遇などの現実的な面だけを考慮して仕事を選ぶのではなく、未来の自分がどうありたいかを第一に考えることが大切だということ、ユニオン・エーの社員の方や数々のお話を聞いて学んだ。自分たちのビジョンはそれぞれ違うため、進むべき道のりも全く異なる。そのため、当たり前がそれぞれ無数にあることを自覚し、誰かが敷いたテンプレートの道のりを歩くことを止め、自分たちのこれからを必死に向き合うための道と時間に残りの大学生生活を費やしていこうと強く思った。

また、活動をしていくにあたりコミュニケーションというものは、とても難しいと実感した。例えば、相手に自分の思いを正しく伝えるためには、どういった表現や言葉を使うべきなのかと考えることは複雑であった。しかし、自分の思いはいったいどこにあるのだろうかという方向性を探したり、本質を追求し続けたりする作業は日頃の会話を見直すきっかけにもなり、とても勉強になった。

これからのコミュニケーション能力向上に向けて、実践的に応用していくことをここに誓う。

以上をもって株式会社ユニオン・エーでのインターンシップ活動総括とする。これからの人生において、この活動で学んだことを忘れずに精進していきたい。